

1 大学院畜産学研究科畜産科学専攻（博士前期課程）の教育ポリシー（方針）

○アドミッションポリシー（入学者受入方針）

帯広畜産大学大学院畜産学研究科畜産科学専攻（博士前期課程）では、「食の安全確保」をはじめとする農畜産学に関する課題解決能力と幅広い見識を備えた人材を育成するため、以下のような人を学生として求めています。そのために、入学試験では専門と語学に関する筆記試験と研究計画・能力を評価する口述試験を実施します。

1. 国際的な視野を持って行動でき、農畜産学に関する高度専門職業人を目指す人
2. 各コースの特定分野に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人
3. 各コースで自ら研究計画を立案できる基礎的知識・技術を身につけている人
4. 獣医・農畜産融合の視点から、食の安全確保・生産性向上・環境保全に関する課題に高い関心を持ち、それらの課題解決に積極的に取り組みたい人

○ディプロマポリシー（学位授与方針）

帯広畜産大学大学院畜産学研究科畜産科学専攻（博士前期課程）では、教育課程で定められた授業科目を履修して所定の修了要件単位を修得し、動物医科学、家畜生産科学、環境生態学、食品科学、農業経済学、農業環境工学、植物生産科学等の農畜産学分野及びその学際分野における最新の知識と技術を駆使し、「食の安全確保」をはじめとする農畜産学に関する問題解決型の高度な研究能力と幅広い見識を備え、以下の能力を身につけた人に学位を授与します。

1. 倫理観：社会通念上や専門家として相応しい倫理観、道徳観を身につけている人
2. 課題設定・解決力：グローバル化を背景とした生命・食料・環境の分野の課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人
3. 表現力・コミュニケーション能力：国際感覚を備えた思考・判断の過程を説明するために必要なプレゼンテーション能力を身につけている人
4. 専門的知識・技術：獣医・農畜産融合の視点から、本専攻に配置された各コースに関する高度専門職業人としての知識と技術を身につけている、または同コースの課題に関する研究者としての基礎的な能力を身につけている人

○カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

帯広畜産大学大学院畜産学研究科畜産科学専攻（博士前期課程）ディプロマポリシーに掲げた知識・技能等を修得させるために、以下の点に配慮して教育を行います。

1. 倫理観の養成：eラーニング等を用いた、倫理観を養成する科目を配置します。
2. 課題設定・解決能力の養成：アクティブラーニングを用いた、論理的思考能力を磨き、食の安全確保・生産性向上・環境保全に関する課題設定・解決能力を養成する科目を配置します。
3. 国際感覚を備えた実践力の養成：グローバル社会で活躍するための英語力を修得するため、英語によるプレゼンテーション能力や論文作成能力を高める科目を配置するとともに、身につけた表現力・コミュニケーション能力を実践するためのインターンシップ、海外演習、研究発表に関する科目を配置します。
4. 豊かな教養と幅広い学術基盤の形成：豊かな教養を身につけるための共通教養科目及び高度な専門性を修得するための専攻コア科目を配置するとともに、専門性の高い知識を分野横断的に修得するために、他コース専門科目を選択科目として配置します。

2 各コースの教育ポリシー（方針）

動物物医科学コース

○養成する人材像

獣医師養成以外の学士課程を卒業した学生を受け入れ、基礎生物学や農畜産学の知識を基に、基礎動物医科学、動物病態学、動物感染症学、病因制御学、さらに動物臨床科学に関する知識を提供し、動物に関する様々な知識を社会に還元できる高度専門職業人を養成する。

○アドミッションポリシー（入学者受入方針）

以下のような人材を求めます。

1. 基礎動物医科学、動物病態学、動物感染症学、病因制御学、動物臨床科学に関する高度な知識及び技術及び研究能力を身につけ、動物医科学的観点から社会への貢献を目指す人
2. 基礎生物学や農畜産学に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人
3. 基礎生物学に関する基礎的知識と基本的技術を踏まえて、動物医科学分野で自ら研究計画を立案できる人
4. 基礎生物学や農畜産学の諸問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明できる人

○ディプロマポリシー（学位授与方針）

以下の能力を備えた人に学位を授与します。

1. 倫理観：動物医科学の知識や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観・道徳観を身につけている人
2. 課題設定・解決力：動物医科学分野における課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人
3. 表現力・コミュニケーション能力：他者の思想や意見を尊重した上で、動物医科学分野について、自身の思想や意見を的確に表現し、意見を交わすためのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている人
4. 専門的知識・技術：基礎生物学や農畜産学の知識を土台に、基礎動物医科学、動物病態学、動物感染症学、病因制御学、さらに動物臨床科学等動物医科学に関する幅広い専門知識とそれを社会において応用、発展させていく能力を身につけている人

○カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

伴侶動物、産業動物、実験動物、野生動物といった様々な動物を対象として、基礎、病態、感染症、病因制御、動物臨床科学等関連の動物医科学に関する幅広い専門分野を学ぶための科目を配置します。

家畜生産科学コース

○養成する人材像

家畜をはじめとする動物の生体機能、育種、繁殖、栄養、管理等に関する広範かつ体系的な知識や技術を身につけ、畜産・生命科学分野の様々な問題に柔軟に対応できる高度専門職業人、または畜産・生命科学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を養成する。

○アドミッションポリシー（入学者受入方針）

以下のような人材を求めます。

1. 家畜やその生産管理に関する高度な知識と技術、研究能力を身につけ、生命科学や畜産学の観点から社会貢献を目指す人
2. 家畜生産科学に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人
3. 家畜やその生産管理に関する高度な知識と技術、研究能力を身につけ、家畜生産科学分野で自ら研究計画を立案できる人
4. 家畜やその生産管理に関する諸問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明できる人

○ディプロマポリシー（学位授与方針）

以下の能力を備えた人に学位を授与します。

1. 倫理観：家畜生産科学の知識や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観・道徳観を身につけている人
2. 課題設定・解決力：畜産や生命科学分野における課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人
3. 表現力・コミュニケーション能力：他者の思想や意見を尊重した上で、家畜生産科学分野について、自身の思想や意見を的確に表現し、意見を交わすためのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている人
4. 専門的知識・技術：家畜の生理や行動を理解しそれを遺伝的改良や生産性の向上へと繋げる基礎から応用までの体系的な知識と技術を身につけている人

○カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

畜産を従来の生産学的視点だけではなく動物福祉や生態系への配慮等を含めた広い視点で捉え、家畜の生理や行動を理解しそれを遺伝的改良や生産性の向上へと繋げる基礎から応用までの最新の知識と技術を修得する科目を配置します。

環境生態学コース

○養成する人材像

農畜産環境とそれを取り巻く自然環境に関する広範かつ体系的な知識を身につけ環境の保全・管理・利用に関する様々な問題に柔軟に対応できる高度専門職業人、または環境生態学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を養成する。

○アドミッションポリシー（入学者受入方針）

以下のような人材を求めます。

1. 農畜産環境及び自然環境の保全と管理に関する幅広い知識、技術及び研究能力を身につけ、生態学的及び環境科学的観点から社会への貢献を目指す人
2. 環境生態学に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人
3. 農畜産環境及び自然環境の保全と管理の知識、技術及び研究能力を身につけ、環境生態学分野で自ら研究計画を立案できる人
4. 農畜産環境及び自然環境の保全と管理の諸問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明できる人

○ディプロマポリシー（学位授与方針）

以下の能力を備えた人に学位を授与します。

1. 倫理観：環境生態学の知識や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観・道徳観を身につけている人
2. 課題設定・解決力：環境生態学における課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人
3. 表現力・コミュニケーション能力：他者の思想や意見を尊重した上で、環境生態学分野について自身の思想や意見を的確に表現し、意見を交わすためのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている人
4. 専門的知識・技術：環境を構成する様々な生命体の役割と機能、相互作用、及び生態系の保全・管理・利用に関する包括的かつ体系的な知識と技術を身につけている人

○カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

農畜産環境とそれを取りまく自然環境を保護から利用まで含めた広い視点で捉え、環境を構成する動物、植物、昆虫、微生物の役割と機能、相互作用、農畜産とのかかわり、そして生態系の保全に関する最新の知識を修得する科目を配置します。

食品科学コース

○養成する人材像

農畜産物を原料とした食品の製造・加工及びその機能性・安全性に関する広範かつ最新の知見や技術を提供するとともに、演習や研究活動を通じた専門教育を行うことにより、食品業界をはじめとしてバイオ産業においても活躍できる高度専門職業人、または食品科学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を養成する。

○アドミッションポリシー（入学者受入方針）

以下のような人材を求めます。

1. 農畜産物を原料とした食品の製造・加工及びこれらの機能性・安全性に関する高度な知識及び技術及び研究能力を身につけ、食品科学的観点から社会への貢献を目指す人
2. 食品科学に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人
3. 農畜産物の加工・利用に関する高度な技術や食品のもつ様々な機能性に関する知識を踏まえて、食品科学分野で自ら研究計画を立案できる人
4. 食品の製造・加工及びこれらの機能性・安全性の諸問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明できる人

○ディプロマポリシー（学位授与方針）

以下の能力を備えた人に学位を授与します。

1. 倫理観：食品科学の知識や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観・道徳観を身につけている人
2. 課題設定・解決力：食品科学における課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人
3. 表現力・コミュニケーション能力：他者の思想や意見を尊重した上で、食品科学分野について、自身の思想

や意見を的確に表現し、意見を交わすためのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている人

4. 専門的知識・技術：農畜産物の加工・利用及びそれらの機能性・安全性についての高度な知識と技術及び応用力を身につけている人

○カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

農畜産物を原料とした食品の製造・加工及びこれらの機能性・安全性に関して、分子レベルから工業生産レベルまでの広範かつ最新の知識と技術を学ぶための科目を配置します。

農業経済学コース

○養成する人材像

農業経済を中心とする社会科学的視点から俯瞰できるような専門教育を行うことにより、フードシステムにおける特定課題の解決に向けた実践的方策を提示することができる高度専門職業人、または農業経済学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を養成する。

○アドミッションポリシー（入学者受入方針）

以下のような人材を求めます。

1. 食料生産・流通・消費に関わる農業経済学や経営学の幅広い、高度な知識と技術を身につけ、農業経済学的観点から社会への貢献を目指す人
2. 農業経済学に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人
3. 食料生産・流通・消費に関わる農業経済学や経営学の基礎的な知識と基本的な技術を踏まえて、農業経済学分野で自ら研究計画を立案できる人
4. 農業経済学及び経営学の諸問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明できる人

○ディプロマポリシー（学位授与方針）

以下の能力を備えた人に学位を授与します。

1. 倫理観：農業経済学の知識や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観・道徳観を身につけている人
2. 課題設定・解決力：農業経済学における課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人
3. 表現力・コミュニケーション能力：他者の思想や意見を尊重した上で、農業経済学分野について、自身の思想や意見を的確に表現し、意見を交わすためのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている人
4. 専門的知識・技術：地域の資源を利用し、食料の生産性向上や食の安全を支えるための農業経済に関する高度な知識と技術を身につけている人

○カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

わが国の食料基地と位置づけられる北海道十勝地域の資源活用と、持続可能な物質循環を踏まえ、食料生産・流通・消費に関わる経済学や経営学に関する分野の高度な知識と技術を修得させる科目を配置します。

農業環境工学コース

○養成する人材像

農業環境工学の理論と実践に基づく先進的な農業生産技術と環境保全を両立させるための技術体系に関する専門教育を行うことにより、農業農村工学分野や農業機械システム学分野で活躍できる高度職業専門人、または農業農村工学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を養成する。

○アドミッションポリシー（入学者受入方針）

以下のような人材を求めます。

1. 農業工学的素養を基礎として、環境と調和した生産技術改善と地域環境保全の知識を身につけ、農業環境工学的観点から社会への貢献を目指す人
2. 農業環境工学に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人
3. 生産技術改善と地域環境保全に関する基礎的な知識と基本的な技術を踏まえて、農業環境工学分野で自ら研究計画を立案できる人
4. 農業工学的素養を基礎として生産技術と地域環境の諸問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明できる人

○ディプロマポリシー（学位授与方針）

以下の能力を備えた人に学位を授与します。

1. 倫理観：農業環境工学の知識や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観・道徳観を身につけている人
2. 課題設定・解決力：農業環境工学における課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人

3. 表現力・コミュニケーション能力：他者の思想や意見を尊重した上で、農業環境工学分野について自身の思想や意見を的確に表現し、意見を交わすためのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている人
4. 専門的知識・技術：地域の資源を利用し、食料の生産性向上を支えるための生産技術や環境制御に関する高度な知識と技術を身につけている人

○カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

わが国の食料基地と位置づけられる北海道十勝地域の資源を活用し、持続可能な物質循環や地域資源を踏まえ、機械的・生物学的手法や土木技術手法による食料生産環境の改善に関する分野の高度な知識と技術を修得させる科目を配置します。

植物生産科学コース

○養成する人材像

作物生産を支える土壌管理から畑作物と飼料作物の育種と栽培、病害虫管理及び草地利用までについて、ラボワークでの基礎からフィールドワークでの実証に至る専門教育を行うことにより、農畜産業の基盤づくりを担える高度専門職業人、または植物生産科学分野の課題について研究できる基礎的な能力を身に付けた研究者を養成する。

○アドミッションポリシー（入学者受入方針）

以下のような人材を求めます。

1. 植物の生理、生態、遺伝や土壌に関する高度な知識をもとにした植物生産の量的・質的向上の高度な知識及び技術及び研究能力を身につけ、植物生産科学的観点から社会への貢献を目指す人
2. 植物生産科学に関する学士課程までの基礎知識と基本的技術を身につけている人
3. 栽培植物の改良や生産と土壌及び病害虫に関する知識や技術を踏まえて、植物生産科学分野で自ら研究計画を立案できる人
4. 植物生産の量的・質的向上の諸問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明できる人

○ディプロマポリシー（学位授与方針）

以下の能力を備えた人に学位を授与します。

1. 倫理観：植物生産科学の知識や社会活動に対する深い理解に基づいた倫理観・道徳観を身につけている人
2. 課題設定・解決力：植物生産科学における課題を自ら設定し、それに対する解決能力を身につけている人
3. 表現力・コミュニケーション能力：他者の思想や意見を尊重した上で、植物生産科学分野について、自身の思想や意見を的確に表現し、意見を交わすためのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている人
4. 専門的知識・技術：地域の資源を利用し、食料の生産性向上を支えるための食料生産原理や生産技術に関する高度な知識と技術を身につけている人

○カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

わが国の食料基地と位置づけられる北海道十勝地域の資源を活用し、持続可能な物質循環や地域資源を踏まえ、植物の生理、生態、遺伝や土壌に関する高度な知識をもとにした植物生産の量的・質的向上に関する分野の高度な知識と技術を修得させる科目を配置します。

3 畜産衛生学位プログラムについて

畜産衛生学位プログラムとは、農作物・食品等の国境を越えた流通拡大を背景として企業等に求められている国際安全衛生基準の取得・維持に対応できる人材を育成するため、本学がこれまで旧畜産衛生学専攻において実践してきた「食の安全確保」に関する高度な専門教育を、全コースの学生が履修可能な学位プログラムとして発展させたものです。

このプログラムでは、農畜産物をはじめとする食の安全衛生に関するマネジメントシステム等の専門教育を国際基準に適応した実習環境において行うことにより、優れた実践力及び応用力を身につけた畜産衛生の専門家を養成します。

本プログラム受講者は、博士前期課程の共通必修科目、共通選択科目を履修の上、プログラム必修科目・選択必修科目・「畜産衛生課題研究」（企業等研修）ないし所属コースの「特別研究Ⅱ」を履修する必要があります。

注1：「畜産衛生課題研究」（4単位）とは、修士論文に代わり、6週間以上の企業研修等を通じて課題研究を行うものです。本プログラム受講者で修士論文を作成する場合は、所属コースの「特別研究Ⅱ」（4単位）を履修します。

注2：本プログラム受講者は、1年次終了時に修士（農学）または修士（畜産衛生学）の学位選択を行います。

畜産衛生学位プログラム

○養成する人材像

HACCP システム専門家教育，六次産業化を目指した新加工技術の開発・製品開発に関する教育を実践的かつ体系的に行うことで，食品安全マネジメントシステムに関する知識及び技術を修得し，企業等と連携して，その知識・技術を現場へ応用できる人材を育成する。

○ディプロマポリシー（学位授与方針）

以下の能力を備えた人に学位を授与します。

畜産物をはじめとする食品の国際安全衛生基準での衛生管理・品質保証に関する高度かつ総合的な知識と技術を有し，優れた実践力及び応用力を身につけている人

○カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

国際安全衛生基準の食品安全マネジメントシステムに関する知識及び技術を実践的かつ体系的に学ぶ授業科目を配置します。さらに企業等と連携し，それらの知識・技術の現場への応用を目指す演習科目を配置します。